

【「学んだことをノートに工夫して書く」という受験勉強方法】

1. 建設部門と総合技術監理部門の合格の要因

建設部門と総合技術監理部門の合格の要因の一つは、「学んだことをノートに工夫して書く」という受験勉強の方法を実践したことです。もちろん、ノートを使うので学んだことを手で書きます。「この方法で勉強したので合格できた」と言っても過言ではありません。

2. 工夫して書く

この勉強方法のポイントは、学んだことが頭の中に確実に記憶できるように工夫して書くことです。例えば、国土交通白書に書いてあること（国土交通白書の内容）が頭の中に確実に記憶できるように工夫して書くことです。

工夫して書くとは、例えば、以下のようなことです。これらはすべて経験上の内容です。

①理解したことをノートに工夫して書く

これは、「学んだことをノートに工夫して書く」うえで最も重要なことです。学んだことが理解不足の状態（理解したつもりの状態）でノートに工夫して書いても頭の中に確実に記憶できません。このような書き方では、書いたことが時間の経過とともに頭の中から消えていきます。理解したことを書けば頭の中に確実に記憶できます。

②教材に書いてあることをラインマーカーやボールペンを使って書き写す

これは、教材に書いてあることを書き写すとき、教材の中で重要なことやポイントとなることに色を付けてノートに書き写すことです。書き写した内容に強弱を付けて記憶することが目的です。

③教材に書いてあることの要約や要点を書く

教材に書いてあることをそのまま丸写しするのではなくその要約や要点を考えこれをノートに書くことです。例えば、液状化対策としての地下水位低下工法を学んだとき、この工法の要約や要点あるいはポイントを考えこれらをノートに書くことです。要約や要点を書きこれらを記憶しておけば書いたことがそのまま解答として書けることがあります。実際に、建設部門を受験したときに、「この方法で記憶していたことがそのまま解答として書くことできた」という経験があります。

④学んだことに関する関連事項や自分の考えを書き加える^{注1)}

これは、例えば、DX 推進上の課題を学んだら、この課題をノートに書くとともにこの課題に関する関連事項や自分の考えを書き加えることです。このように書き加えることで学んだことに関する技術や知識の幅が広がります。つまり、これは、解答として書くことができることを増やすことです。

3. 手で書くことが重要

この受験勉強方法では、学んだことを手で書くことが重要です。

①手で書くことで確実に記憶できる

学んだことをノートに手で書くことで学んだことが頭の中に残ります。つまり、学んだことが確実に記憶できます。学んだことをパソコンを使って書くよりノートに手で書くほうが頭の中に残ります。ノートに手で書くことで脳が活性化するのもかもしれません^{注2)}。

②手で書くことは記述式試験対策となる

記述式試験は書いたことが評価される試験です。合格点が取れる解答を答案用紙に時間内に書くことで合格できます。日常業務の中で、例えば、会議の資料や業務報告書などの技術文書を手で書くことはありません。全員の方がパソコンでこれらを書きます。記述式試験では、文や文章を手で書くことに慣れておくことが解答を時間内に書くうえでのポイントです。

また、文や文章を手で書くことで漢字や言葉遣いも覚えます。パソコンで文や文章を書くとき漢字変換機能があるため漢字を覚えません。また、学んだことに関する関連事項や自分の考えを書き加えることで言葉遣いも覚えます。

手で書くことは記述式試験対策の基礎となる内容です。

注1)：2016年4月26日に掲載した「ノートを使って勉強する」というテーマのブログを参照のこと

注2)：「マンガで学ぼう・ダウンロードコーナー」の中の「続続・頭の中の整理方法」の資料を参照のこと

以 上